2026年　少年の部　新人戦大会

第26回　東京都少年新人(中学)軟式野球大会　コントリビュートトーナメント

主　　催：板橋区軟式野球連盟
後　　援：板橋区
大会主旨：軟式野球を愛好する少年・少女に、ゲームの楽しさ、スポーツのさわやかさ、努力、協力、信頼など、野球を通じて人格形成の一助をはかるとともに、ゲームを通じて入賞の順位を定め、そこに到達する意気を養うことを目的として、本大会を開催する。
出場資格：（1）区内に在住または区内中学校に登録時在籍する２年生以下の生徒で、男女は問わない。
（2）中体連に加盟している学校、クラブチームも参加できる。
（3）硬球を使用している団体に登録されている選手は出場できない。
上部大会：本大会に優勝、準優勝および推薦されたチームは、第26回東京都少年新人(中学)軟式野球大会に、主催者の推薦を得て板橋代表として出場しなければならない。
大会日程：７月５日より、土曜日・日曜日および祝日とする。

競技運営に関する注意事項

１．大会は公認野球規則、全日本軟式野球連盟の諸規定(競技者必携)、板橋区軟式野球連盟規程および大会取り決め事項を適用する。

２．監督会議で説明または決められた事項はチーム全員に必ず徹底させること。

３．ベンチに入れる人数は、登録されたユニフォーム着用の監督30番、コーチ29番、28番、選手は主将10番を含む25名以内のほか、ユニフォームを着用しないチーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)、の各１名とする。また、熱中症対策として保護者２名以内も認める。監督、コーチは成人でなければならない。

４．背番号は、算用数字の０番から99番までとする。

５．試合の出場選手は９名以上とする。

６．出場チームは、試合開始30分前までに、各グラウンドで受付を行い、所定の打順表を受取り、試合に出場する予定選手をフルネームで記載し提出すること。

７．指名打者制(ＤＨ制)を採用することが出来る。ただし二刀流は採用しない。【指名打者ルールについてを参照】

８．試合開始予定時刻になってもグラウンドに来ないチームは、原則棄権とみなす。

９．野球規則の周知、審判技術向上のため、チーム審判制（審判員２名）を採用する。ただし決勝戦は除く。また、投球管理制（１名、保護者も可）を採用する。

チーム審判制は、自チームの試合の前の試合あるいは後の試合を担当する。試合の開始30分前までに来場して、専任審判員にチーム名と氏名を告げること。

また、チーム審判の遅刻は、１回目で警告書を発行、２回目の遅刻で次大会の出場権を失う。

10．優勝チームおよび推薦されたチームは、必ず上部大会に出場しなければならない。

11．試合の秩序を乱し、その進行を妨げる行為をした場合は、当該選手とチームに対して厳重な処分をする。

12．二重登録および試合において不正を行ったチームに対する措置

① 他地区との二重登録をした場合は、厳重な処分をする。
② 試合中に発見された場合は、相手チームに勝利を与える。
③ 試合終了後に発見された場合は、次の対戦チームに勝利を与える。
④ 決勝戦終了後に発見された場合は、準優勝チームを優勝チームとする。

13. 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、選手の安全を第一に、その程度を問わず、球審は臨時代走者の処置を行わなければならない。（打順の前位の選手、ただし投手を除く）臨時代走の役割は、アウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。
14. ヒット・バイ・ピッチの判定
打者が投球を避けようとすることが条件である。しかし、投球がストライクゾーンで打者に触れた場合には、避けようとしたかどうかを問わずすべて「ストライク」である。
また、バッターボックス内で投球が打者に当たったものについては、避ける避けないにかかわらずヒット・バイ・ピッチとする。
15. ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）の使用を禁じるが、電子スコア記録用として１台の使用を認める。

競技に関する注意事項

１．試合はトーナメント方式とし、ベンチは組み合わせ番号の若い方のチームを１塁側とする。
２．試合は７回戦１時間 20 分（決勝戦は１時間 45 分）を過ぎて新しい回に入らないこととする。
３．攻守の決定は、１回戦より試合前の打順表照合後、監督と主将が審判員立会いのもと行う。
４．正式試合の成立は、４回完了時とするが、完了時以前でも規定時間に達したならば試合は成立する。
５．得点差によるコールドゲームは、４回 10 点差、５回以降７点差とする。なお、すべての試合に適用する。
６．暗黒、降雨によるコールドゲームは、４回均等回数で決定する。
７．７回または１時間 20 分（決勝戦は１時間 45 分）を過ぎて同点の場合は、延長戦は行わずタイブレーク方式（１死満塁、任意打順で行う。タイブレークが２イニング目に入った場合も同様とする。投手および捕手も走者とする）を行う。タイブレークは２イニングまで行い、勝敗が決しない場合は抽選で決定する。
８．抗議のできるものは、監督と当該プレーヤーのうち１名とする。
９．試合球はチームがナガセケンコーM球を２個以上用意する。
10. 試合時間の管理について
（１）試合時間は当該担当審判員が管理し、試合開始時刻を両チームに通告する。
（２）規定時間は当該担当審判員が管理する。
（３）規定時間の取り扱い
① 先攻チームの攻撃中に規定時間に達した場合
ア 先攻チームが勝ち越せなければ試合終了となる。
イ 先攻チームが勝ち越し、または同点で終了したときは裏の攻撃に入る。
○ 後攻チームが勝ち越せなければ試合終了となる。
○ 後攻チームが勝ち越した場合はサヨナラ勝ちで試合終了となる。
○ 後攻チームが同点として終了した場合はタイブレークに入る。
② 後攻チームの攻撃中に規定時間に達した場合
ア 後攻チームが勝ち越せなければ試合終了となる。
イ 後攻チームが勝ち越した場合は次のイニングに入る。（ただし規定回数を超えることはない）
ウ 後攻チームが同点として終了した場合はタイブレークに入る。
11. 投手の投球数制限については健康維持を考慮し１日 100 球以内とする。試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。投球制限内で他守備に付いている場合は投手の再登板を認める。

試合中の禁止事項

1．競技場内(ベンチを含む)では、喫煙および飲食、ガムを噛むことを禁止する。(ただし熱中症予防対策としての水分補給は認める)
2．試合中の暴言、ヤジおよび個人攻撃を禁止する。また、応援の野次および目に余る行為はチームの責任とする。
3．ラフ・プレイについては厳禁とする。万が一行われた場合は、当該選手はその時点で出場停止とし、後日、連盟より処分内容を通告する。
4．競技場内での素振り用長尺バット、パイプおよびリングの持込みを禁止する。
5．ジャッジメントに関する抗議は一切厳禁とする。

スピード化に関する事項

1．監督またはコーチが１試合に投手の所へ行ける回数は３回以内とする。なお、タイブレークになった場合は、１イニングに１回行くことができる。ただし、投手交代の場合には回数に含まない。**この際、投手(内野手含む)にペットボトルやタオルを持参することができる。ただし、選手を帯同することはできない。**

野球規則 5.10 ℓ (2) 「監督またはコーチが、１イニングに同一投手のもとへ２度目に行けば、その投手は自動的に試合から退かなければならない。」は適用しない。

2．タイムの回数制限

（1）守備側のタイム

捕手または内野手が、１試合に投手の所へ行ける回数は３回以内とする。タイブレーク方式になった場合は、１イニングに１回行くことができる。野手が（捕手も含む）投手のところに行った場合、そこに監督またはコーチが行けば、双方１回として数える。逆の場合も同様とするが投手交代の場合は、監督またはコーチの回数には含まない。

投手交代の場合、投手と捕手が打ち合わせ(サインの確認)のために、準備投球の前あるいは後に少しだけ会話することは、捕手または内野手の回数には含まない。

（2）攻撃側のタイム

１試合に３回以内とする。タイブレーク方式になった場合は、１イニングに１回行くことができる。

3．投球を受けた捕手は速やかに投手に返球すること。また、捕手から返球を受けた投手は速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
4．打者は、速やかにバッタースボックスに入り、サインはバッタースボックス内で見ること。また、次打者は、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に着くこと。
5．攻守交代時、最後のボール保持者は必ず投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
6．攻撃が始まるとき打者、次打者およびベースコーチは円陣に加わらず、速やかに所定の位置につくこと。

マナー・その他に関する事項

1．投手が投手板について投球動作を開始したら、投手の動揺を誘うような大きな声を発してはならない。
2．前進守備時の野手の位置については、故意に打者を惑わす行為を阻止することと野手の安全を考慮して塁間の半分を目安とする。
3．ベンチ内外の大人が、いかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。

ユニフォーム、用具について

1．ユニフォーム、帽子は同色・同形・同意匠、アンダーシャツ、ベルト、ストッキングは同色とする。
2．金属・ハイコンバット(複合)は連盟公認ＪＳＢＢマークが付いたものを使用すること。後付けフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用を認める。
それ以外の市販のＪＳＢＢのマークをつけたバットに、付け足しや改造が見受けられた場合は使用を禁止する。
3．試合に出場する捕手は、安全のためプロテクター・レガーズは連盟公認ＪＳＢＢマークが付いたものとする。マスクはスロートガード付きまたはガード一体型のもので、ヘルメットと同様のＪＳＢＢマークとＳＧマーク、およびソフトＢマークが付いたものとする。
なお、ソフトボール用も使用可能とする。また、ファウルカップの着用を義務づける。
4．打者・次打者・走者はＪＳＢＢマークとＳＧマークの両方が付いているヘルメット、ベースコーチはＪＳＢＢマークのヘルメットを着帽しなければならない。(イヤーフラップは両耳とする)
5．試合に必要な用具を忘れたチームは「棄権扱い」となる。
6．アームスリーブについては、野手は色の規制はなく片袖のみの着用でも可とする。投手は、アンダーシャツと同色で、両袖着用とする。
7．顎ガードつきヘルメットについては、ＳＧ基準を満たしたものについてのみ使用を認める。
8．サングラスを使用してもよい。ただし、投手に限りミラーレンズサングラスの使用はできない。なお、野手がサングラスを帽子のひさしの上に乗せてもよい。
9．ネックウォーマーは使用してもよい。
10. アイブラック(アイパッチ)の使用を認める(投手の使用も認める)。

【 指名打者ルールについて 】

指名打者の取り扱いについて　【公認野球規則　5.11 (a)】
(1)　指名打者ルールは、次のとおりである。
① チームは、投手に代わって打つ打者（指名打者）を指名することができる。
② チームは必ずしも指名打者を指名しなくてもよいが、試合前に指名しなかったときは、その試合で指名打者を使うことができない。
③ 試合開始前に交換された打順表に記載された指名打者は、相手チームの先発投手に対して少なくとも1度は、打撃を完了しなければ交代できない。
ただし、その先発投手が交代したときは、その必要はない。
④ 指名打者に代えて代打者を使ってもよい。その代打者は以後指名打者となる。
退いた指名打者は、再び試合に出場できない。
⑤ 指名打者に代えて代走者を使ってもよい。その代走者は以後指名打者となる。
指名打者が代走者となることはできない。ただし、臨時代走者になることはできる。
⑥ 指名打者は打順表の中でその番が固定されており、多様な交代によって打順を変えることはできない。
★ 当連盟試合では「5.11 (b)：二刀流ルール」は採用しません。

(2)　指名打者の役割が消滅する場合は、次のとおりである。
① 指名打者が守備についた場合。この場合、投手は退いた守備者の打順を引き継ぐ。
ただし、2人以上の交代が行われたときは、監督が打撃順を指名しなければならない。
② 投手が他の守備位置についた場合。
③ 代打者または代走者が試合に出て、そのまま投手となった場合。
④ 投手が指名打者の代打者または代走者になった場合。
⑤ 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になった場合。
⑥ 登板中または新しく出場する投手を打順表に入れた場合。

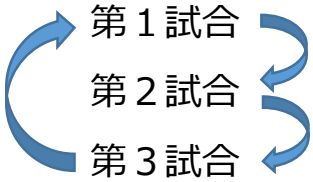
★ＤＨ制とは、指名打者は「打つ専門」で、投手は「投げる専門」です。
★このため指名打者が「打者以外」の投手や野手になった場合、投手が「投手以外」の野手や打者になった場合、また他の野手が投手になった場合などにはＤＨ制は解除となります。
★選手交代時にＤＨ制が解除される場合には審判員と監督はその旨を確認してください。

チーム審判員と投球数管理係の担当試合 【少年の部】

チーム審判員３名（塁審２名・投球数管理係１名）を選出してください。

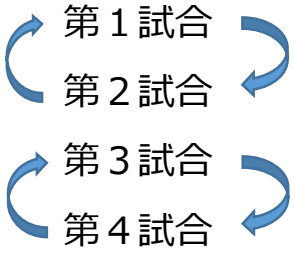
３試合の場合のチーム審判員と投球数管理係担当試合

① 第１試合は、第３試合のチームが担当。
② 第２試合は、第１試合のチームが担当。
③ 第３試合は、第２試合のチームが担当。



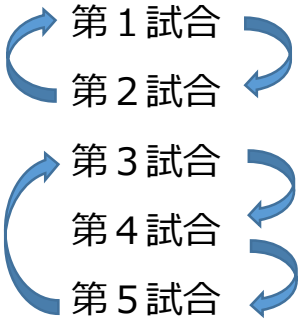
４試合の場合のチーム審判員と投球数管理係担当試合

① 第１試合は、第２試合のチームが担当。
② 第２試合は、第１試合のチームが担当。
③ 第３試合は、第４試合のチームが担当。
④ 第４試合は、第３試合のチームが担当。



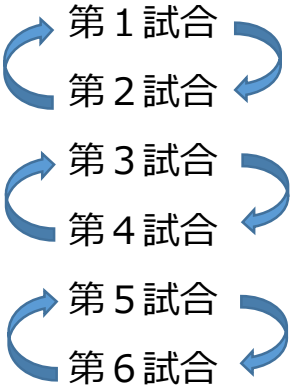
５試合の場合のチーム審判員と投球数管理係担当試合

⑤ 第１試合は、第２試合のチームが担当。
⑥ 第２試合は、第１試合のチームが担当。
⑦ 第３試合は、第５試合のチームが担当。
⑧ 第４試合は、第３試合のチームが担当。
⑨ 第５試合は、第４試合のチームが担当。



６試合の場合のチーム審判員と投球数管理係担当試合

① 第１試合は、第２試合のチームが担当。
② 第２試合は、第１試合のチームが担当。
③ 第３試合は、第４試合のチームが担当。
④ 第４試合は、第３試合のチームが担当。
⑤ 第５試合は、第６試合のチームが担当。
⑥ 第６試合は、第５試合のチームが担当。



審判部より確認事項

１．チーム審判制（前・後審判：塁審、投球管理係、計３名）

野球規則の周知・審判技術向上のため、チーム審判制を採用しています。チーム審判とは前後の試合の審判（１塁・２塁・３塁）を担当します。

審判を担当する方は試合の開始時刻３０分前に到着し、担当審判員にチーム名と氏名を伝えてください。

試合開始時刻の整列以降到着した場合は遅刻扱いとします。チーム審判の遅刻は、１回目は警告書を発行、2回目遅刻した場合は次大会の出場権を失うこともあります。

２．大会棄権

大会を棄権する場合には、必ず「棄権届け」を当連盟に提出してください。未提出の場合「無届け棄権」で、次大会の出場権を失うこともあります。試合開始時刻を過ぎてもグラウンドに来ないチームは「無届け棄権」とみなします。（後日「棄権届け」を提出した場合は「届け出棄権」扱いとします。また、電話等で大会棄権を連絡してきた場合は、後日「棄権届け」を提出してください。）

３．用具点検

用具点検は準決勝以上の試合および上部大会出場チームを対象に実施します。

新規チームは用具点検の対象とします。

４．打順表

打順表は必ずフルネームで記載して試合開始時刻３０分前までに提出してください。

５．出場選手

板橋区軟式野球連盟に登録された選手が出場する事。（他支部登録選手、無登録の者は出場できません。）新入部選手が出場する場合には事前に「追加登録届け」を提出し、連盟の承認を受けてください。

上記の件はチーム内で周知徹底し、必ず大会要項を良く読んでください。

グランド内の事故防止について

試合中のグランドへの部外者の立入りは厳禁となっています。

各グランドの試合領域はファウルエリアを含めてグランドごとに決まっておりますので、審判員の指示に従ってください。

試合中のグランド内で発生した部外者の事故につきまして、当連盟では一切の責任を負いかねますので、チームの皆様に周知徹底をお願いいたします。

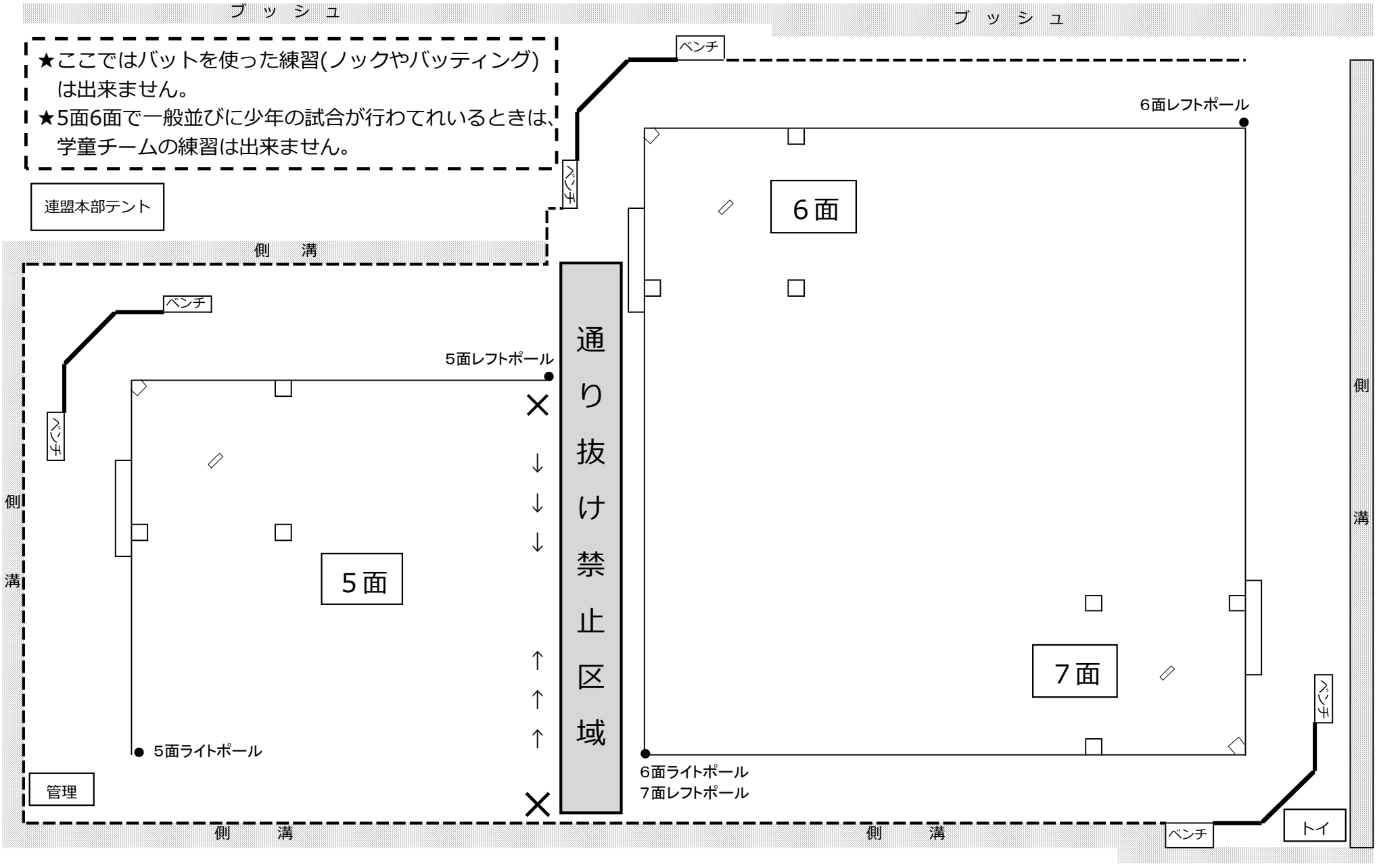
また、当連盟では野球を通して健全な人間関係やスポーツマンシップを育むのも１つの使命と考えております。お互いにスポーツを楽しむ人間として、相手の立場を尊重し、ルールを守って、暴言や暴力は厳に慎みましょう。トラブルは常に暴言から始まります。

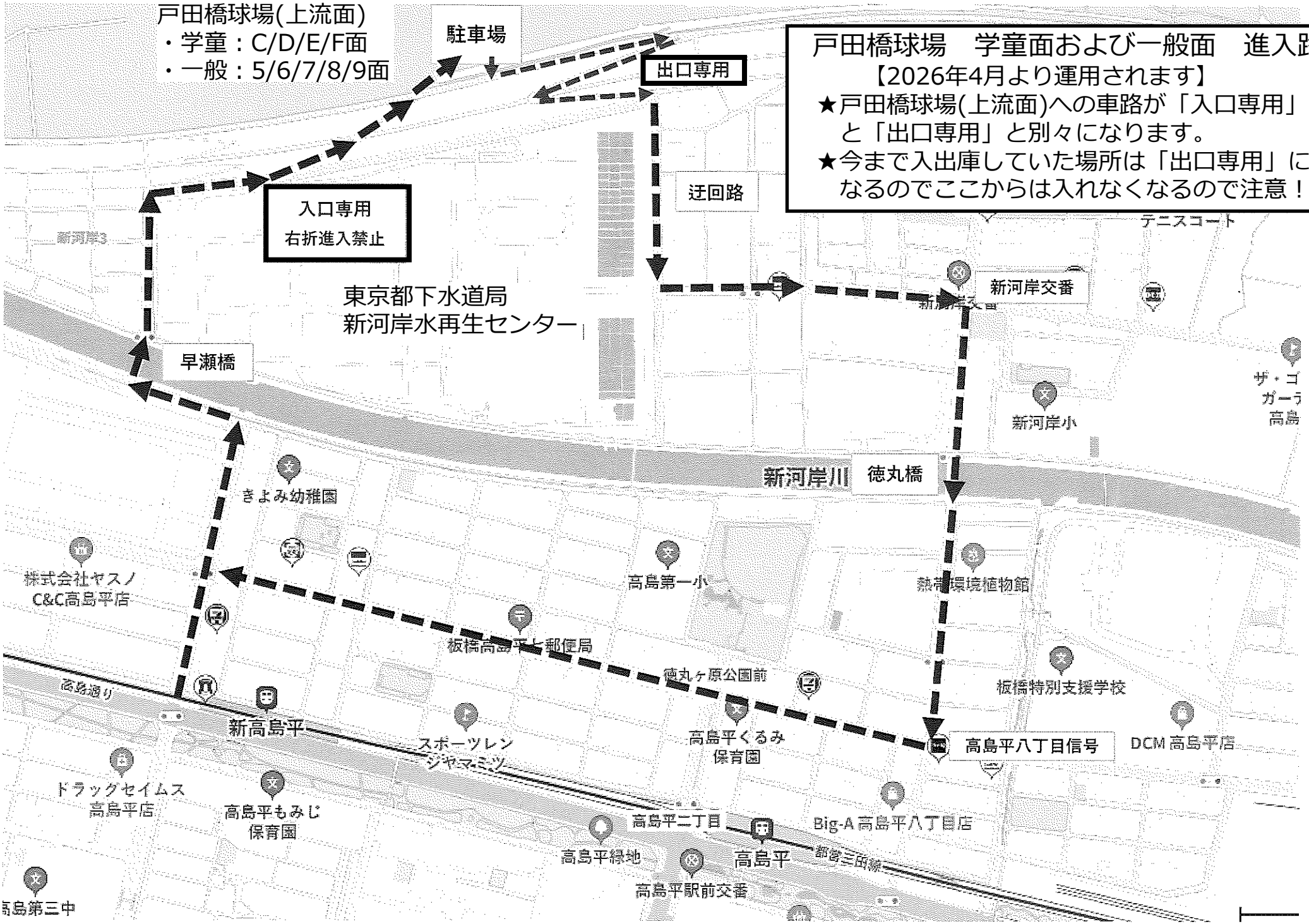
チームの皆様のご協力をお願いします。

以上

厳 重 通 達 事 項

★ 5面・6面・7面の共有地域部分の通行を厳に禁止します。通行していた時に、衝突事故等が発生しても当連盟では、一切責任を負えません。




戸田橋球場(上流面)
・学童：C/D/E/F面
・一般：5/6/7/8/9面
駐車場
出口専用
戸田橋球場　学童面および一般面　進入路
【2026年4月より運用されます】
★戸田橋球場(上流面)への車路が「入口専用」と「出口専用」と別々になります。
★今まで入出庫していた場所は「出口専用」になるのでここからは入れなくなるので注意！
迂回路
入口専用
右折進入禁止
東京都下水道局
新河岸水再生センター
早瀬橋
新河岸交番
テニスコート
新河岸小
新河岸川
徳丸橋
きよみ幼稚園
株式会社ヤスノ
C&C高島平店
高島第一小
熱帯環境植物館
板橋高島平七郵便局
徳丸ヶ原公園前
板橋特別支援学校
新高島平
スポーツレン
ジャマーミツ
高島平くるみ
保育園
高島平八丁目信号
DCM高島平店
ドラッグセイムス
高島平店
高島平もみじ
保育園
高島平二丁目
Big-A高島平八丁目店
高島平緑地
高島平
都営三田線
高島平駅前交番
高島第三中